

LETTER

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Contents

- 1ページ 院長就任のご挨拶
- 2ページ GPPN report 2022
- 3ページ 専門職学位課程5コースの紹介
- 4ページ 2022年春、旅立ちの日・退任のご挨拶 / TOPICS

院長就任のご挨拶

東京大学公共政策大学院 院長 飯田敬輔

2月24日、ロシア軍はウクライナ東部の親ロシア派勢力の保護を口実に、ウクライナに侵攻しました。ロシア軍からの絶え間ない砲撃により、多くのウクライナ市民が死傷し、世界は恐怖に包まれました。ウクライナから近隣諸国への難民は、本稿執筆時点で300万人を超え、さらに増える予想されています。G7およびNATOの加盟国は強い結束力を示し、ロシアに対して空前の経済制裁で臨みました。通常、経済制裁に及び腰な日本も、今回に限っては他のG7諸国と足並みを揃え、対ロシア制裁で強固な決意を見せました。

国際社会も弱点と強みの両方を示しました。侵攻当時、ロシアは国連安全保障理事会の議長国を務めており、ウクライナ領からの即時撤退を求めた安保理決議案に拒否権を発動しました。その後、ウクライナ案件は国連総会に移り、ロシア軍撤退を求める総会決議が141カ国の賛成とわずか5カ国の反対で可決されました。

冒頭から悲しい話題で就任の挨拶を始めるのは申し訳ないのですが、これが今、私たちに突き付けられた厳しい現実です。この2年間というもの、世界は新型コロナのため、各国ともかなり内向きになっていました。しかし、この危機を目の当たりにした今、私たちは現実を直視し、各国と連携しながら思考し行動していくしかありません。この戦争がもたらす政治的・経済的影響は非常に深甚で、我々の想像をはるかに超えるものとなるでしょう。

唯一の朗報は、東京大学公共政策大学院(GraSPP)には、国際安全保障や外交問題に精通した専門家が多数おられるということです。また、この戦争による石油・天然ガスや食料の価格高騰の経済的影響や、戦後復興にかかる経済的コストについても、多くの経済学者が予測するであります。そして、教員とタッグを組んで、皆さん自身もこうした分析や解決策の提案に積極的に参加することになると思います。

GraSPPは、そのリソースを活用しようとする意欲さえあれば、非常に素晴らしい環境を提供することができます。私たちは東大の中では比較的若い組織で、その始まりは2004年に遡るに過ぎません。しかし、この間、GraSPPは規模と多様性の両方で成長を遂げました。教員も学生も非常に国際性と多様性に富んでいます。留学生の国籍は先進国・発展途上国を問わず30カ国以上に及びます。GraSPPは、公共政策の実践に携わる学生を育成することを目的とした教育機関として出発しましたが、現在は博士課程も整備され、研究機関としても活発に活動しています。ですから、公共政策の中でどのような分野に関心をお持ちの方であっても、関心を同じくする仲間と交流できる快適な環境がそこにはあります。

また、GraSPPでは国際社会に参画するための多くの機会が用意されています。GraSPPは、コロンビア大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス(LSE)、シアンスポなど、世界の数多くの大学とダブルディグリー・プログラムを行っています。また、キングズ・カレッジ・ロンドンとのプログラムも新たにスタートする予定です。ここ数年、我々の国際プログラムは新型コロナの感染拡大の影響でやや停滞気味でしたが、2022年は多くの学生がようやく自由に海外旅行ができるようになり、本格的国際交流復活の年になると期待しています。ですからぜひ、こうした機会も活用してみてください。

皆さんのGraSPPでの経験が実り多きものとなりますよう、心から願っております。



GPPN report 2022



Roberto Orsi, Project Associate Professor

After the successful first online experience organised by GraSPP in 2021, this year as well the annual GPPN conference has taken place as an online event broadcasted from the Hertie School in Berlin, demonstrating the resilience of our GPPN alliance in the face of the adversities caused by the COVID-19 pandemic, and a high degree of commitment from everyone. We are grateful to our colleagues at Hertie for their flawless organisational effort, carried out with great professionalism and a warm feeling.

This year we again witnessed a high level of competition between the projects presented by teams from all Schools, covering a large variety of topics, although predominantly with a humanitarian flavour. This fierce competition undoubtedly reflects the high quality of teaching and training students receive in all partner Schools, not to mention their personal commitment and enthusiasm. We as participants from GraSPP were glad to see that our teams were certainly able to compete at the highest level, displaying careful topic choices, an impressive attention to detail, and very strong communication skills. It is also clear that GraSPP teams continue to improve their performance year after year, and as a School we should truly be proud of our overall trajectory.

Mia Yamakawa (MPP/IP)

I was lucky to participate in the GPPN 2022 Conference. Our group proposed the “WSME (Women in SMEs) Program” (pronounced We’s-Me’s), aiming to increase the birth-rate in South Korea and tackle the issue of the declining population, by providing appropriate infrastructure for teleworking and childcare. Building proposals was a huge learning opportunity, with internal discussions and multiple sessions of fruitful feedback from the professors throughout the program. The experience can be reflected upon in three parts: the value in having a hardworking team, adapting to changing circumstances and finally, the availability of a positive, learning environment.

The Conference truly highlighted the beauty of having students who are all passionate to make a change, and willing to contribute equally to a project. Through the development of the project, the meetings, discussion, and creation of the proposal were all self-directed by each member, helping one another out when needed. Such cooperation was particularly important for this project, as many teams felt waves of motivation due to changing circumstances.



GPPNカンファレンスの様子

We were excited for a trip to Berlin, with hopes of an in-person conference, until ending up to switching online, as COVID outbreaks continued in Europe. Initially hit by a wave of negativity, we lost motivation to put 100% into the project. However, by using chat rooms and having regularly scheduled zoom meetings, we were able to cultivate a friendship nonetheless and poured our best efforts into the final conference.

To our surprise, our project was amongst 10 selected to be in the finals. This result was beyond our expectations, and made the experience and effort we put in, despite the changing circumstances, more than worthwhile.

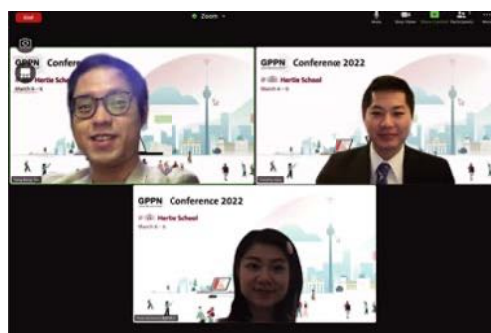
Overall, the interaction with students from other universities was an overwhelmingly positive experience, being able to listen to many amazing proposals, as well as create friendships and memories. The details are available on their website, which I would eagerly recommend others who are considering taking this module to peruse before the 2023 conference!

Tan Yong Beng, Timothy Goo, Risa Shimono (MPP/IP)

3月初めの3日間、GPPNのカンファレンス2022に参加しました。ドイツはベルリン、Hertie Schoolで行われる予定でしたが、コロナ禍での参加者の安全確保のため、プログラムは全てオンラインとなりました。それにも関わらず、今回のカンファレンスは自分たちのチームが選んだ社会課題とそれに対する政策について政策立案の知識とスキルを磨き、実際に応用して発表する非常に貴重で楽しい機会でした。GPPN各校で選出された28チームの政策課題や斬新な解決策や評価を聞き、また他の名門大学院の学生とも関係を構築することもできました。2日目には、Hertie Schoolが企画したグループアクティビティに参加して他校の学生と交流し、学生やプロジェクトの多様性に触れられた有意義な時間でした。

私たちのチームでは、それぞれがユニークな視点と経験を持ち寄り、韓国社会における脱北者の適応問題に対する政策的解決策を考案しました。メンバーは全員異なる国にいましたが、時差を超えて協力しあい、ミーティングを重ね、調査をして2本のドラフトを書き上げました。また、GraSPPの複数の先生方からドラフトへのフィードバックやインプットを受け、私たちの提案や考え方をさらに強固にしました。大会当日の発表や質疑応答も落ち着いて乗り切ることができたのは、しっかり準備したおかげです。

今回、レベルの高いカンファレンスに参加できたことに感謝しています。驚いたことに、オンラインでも楽しめるよう、Hertie Schoolによって期間中Uber Eatsの注文を25ユーロ分配慮してくれました。タイトなスケジュールにもかかわらず、学生交流やベルリンの文化をオンラインで楽しむための時間も確保されていました。情熱を注げるプロジェクトやアイデアを見つけ、GPPNカンファレンスに参加することを強くお勧めします。



左上からTan Yong Beng、Timothy Goo、Risa Shimono

専門職学位課程 5 コースの紹介

公共管理コース 加藤 裕介



このコースの特徴は、学べる内容もさることながら、集う学生によって色付け・魅力付けされると感じます。公共管理コースには、政治学・行政学のさらなる探究を目指し院進学した学生のほかに、現職の行政職員、官公庁と取引のある企業職員など、学びを仕事の現場に還元しながら研究を続ける職業人学生も多くいます。修了後、何らかの形で公共に従事するキャリアを歩む場合、公共管理コースでの出会いは直接的に役立つと確信しています。

私は地方議員(横須賀市議)をしつつ学んでいるのですが、公共管理コースを選んだ理由は、「理論と実践の橋渡し」のためでした。狙い通り、最高のインプットを得つつ、ディスカッションやレポート執筆を通じて、具体的に実務に生かせる学びが、身につけていることを実感しています。理論だけでも、実践だけでも成しえない社会課題解決を、公共の仕事を通じて実現するための機会が揃っています。

経済政策コース 福谷咲奈



経済政策コースでは、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学といった必修科目で経済学の理論を学び、各自の関心に合わせて、現実の政策課題を経済学的に分析し、政策提言に落とし込むといった実践的な学習をします。私は国際開発・開発経済に関心があるので、経済学の知識を身につける傍ら、実務家の先生方から実践的な知識を教えていただける点が、このコースの魅力だと感じています。

秋学期に受講した“International Field Workshop”では、コロナ禍のジェンダー格差についてリサーチをして、世界銀行の専門家と議論する貴重な経験を得ることができました。また、複数の授業を通して、エビデンスに基づいた政策立案(EBPM)を体験できる点も大きな魅力です。昨年は行政・民間データを利用して因果推論を行い、その結果をもとに政策を考え、地方公共団体の方に発表しました。このように、自分次第でさまざまな機会を得られる環境なので、どのような専門性を培いたいのかよく考えて、この環境を十分に活用してほしいと思います。

法政策コース 横瀬雄太郎



2年目からCAMPUS Asia生として現在留学中で、在籍は実質1年ですが、実り多い1年だったので法政策について紹介します。まず法政策の特徴は法を学ぶ視点の多面性です。一般的な法解釈学に加え、法とは、立法とは、社会での位置付けは？など様々な面から法を学べます。法律を作る、法的助言をする、法律の範囲で儲けたい!? 将来どう法律に関わろうと、多面的に法律を見る力は大きな財産です。また、法政策は法科大学院と合同授業も多く、将来の法律家が法をどう見るか肌で感じられるのも魅力です。GraSPPの中で法政策は国内的で地味そうかもしれませんが、でも刑事法が犯罪人引渡条約を通じて世界とつながるよう一見すごく国内的な法律でも国際化が進んでいます。「グローバル」という言葉の魔力で法を学ぶ機会を簡単に捨てるのは勿体無い。何のために法があるのか？学問と実務の狭間のGraSPPという環境で、そんな間に頭を捻る2年間を過ごすのはいかがでしょう？

国際公共政策コース 亀山裕貴



国際公共政策コースは、世界各地域やグローバルな公共政策課題に関心対象としています。そのため、MPP/IPを除く他のコースとは異なり、特定の学問分野に研究対象を絞っていません。これが所属学生の持つ興味関心の多様性を生み出し、コースの持つ魅力の一端を形作っています。例えば、私の場合、途上国の政治制度や政策評価に関心があり、比較政治や実証経済を中心に履修を組んできましたが、周囲には国際人権法や競争法、中国の対外政策を専門とする方もいらっしゃいます。

GraSPPや同コースへの進学を検討している方に対しては、それぞれの特徴や魅力をよく理解するところから始めることをお勧めします。一見どのコースや大学院も似たように見えますが、注意深く観察すればそれぞれ違う魅力が隠れているはずです。そして、ご自身の興味関心に最も即した進学先を選択する事で、より有意義な大学院生活を送ることができるのではないのでしょうか。

国際プログラムコース (MPP/IP) Ridhi Soni



For students like me who are passionate about making a tangible contribution to societal development, MPP/IP provides training and prepares one for the same. It also offers a wide array of intellectually stimulating courses coupled with experiences that supplement and further deepen understanding.

The programme is designed to give sufficient hands-on learning in order to encourage students to develop creative thinking and is adaptable enough to fit the specific interests of students from various backgrounds. It provides exposure to a plethora of new and innovative topics in the field of policy that are relevant to people at all levels of society (individual, community and government). Furthermore, the diverse and stellar faculty at the school makes this a wholesome experience. GraSPP provides a great opportunity to build a lucrative career in the field of policy. For those who are looking at a future in the development sector, the school awaits with new opportunities.

2022年春、旅立ちの日



2022年3月24日、2021年度春季公共政策学教育部学位記伝達式を挙行了しました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底した上で、国際学術総合研究棟SMBC Academia Hallで開催され、修了生に本教育部教員から学位記が伝達されました。会場に入ることが出来なかった修了生やそのご家族の方たちに向けて、式典のオンライン配信を行いました。式典では、成績特別優秀者に1名、成績優秀者4名の表彰が行われました。

大橋弘院長からの祝辞は以下にて掲載しています。

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/wp-content/uploads/2022/04/2e15be457adf5a544c6a8085f8ce5df4.pdf>

また、2022年3月31日を以って大橋弘前院長が退任いたしました。

退任の挨拶

公共政策大学院(GraSPP)は2004年に誕生した新しい部局です。その後、GraSPPは大きく変貌し、国内だけでなく海外の公共財の形成にも貢献しようとするなかで、その思いとは裏腹に、教育・研究・事務の体制が十分でなく、「GraSPP ver2.0」が必要なときを迎えていました。

ところが着任当初から、コロナ禍に悩まされて2年間が過ぎることになりました。最初の1年はキャンパスが閉鎖され、学生にどのような価値をGraSPPが提供してきたのか、改めて考えさせられました。学生との率直な対話のなかでは、平静を装いつつも、愕然とすることが幾度かありました。

学生のニーズをしっかりと受け止めてそれを現場に反映す

るために、新たに学務委員会を設けたり、事務体制を改変したりと試みながら、GraSPP ver2.0を立ち上げようと格闘した2年間のように思います。

色々な面で至らない院長だったと思いますが、この2年間を支えて下さった教職員の皆様には感謝の言葉もありません。

GraSPPの更なる飛躍を見守っています。



公共政策大学院 教授 大橋弘

TOPICS

2022年度専門職学位課程の募集要項及び入学願書を下記URLにて公開しました。

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/news/2022-04-06-34747/>

出願期間：2022年7月1日～7月7日(職業人)、2022年7月20日～7月26日(一般)

2022年5月19日(木)15:30～17:00に入試説明会を行います。詳細は下記URLをご確認ください。

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/admissions/briefing-sessions/>

編集後記

4月6日、「2022年本屋大賞」に逢坂冬馬さんの『同志少女よ、敵を撃て』が選ばれました。印象的だった受賞スピーチの一部をご紹介します。「…平和を望む人たちは、平和構築のためのプロセスに可能な限り参加し、それぞれの市民というレイヤーの中で、お互いに信頼を勝ち取っていかねばなりません。(中略)なので私も絶望することはやめます。戦争に反対し、平和構築のための努力をします。それは小説を書く上でも、それ以外の場面でも変わりはありません。」(編集担当)

vol.
66 NEWS
LETTER

【編集・発行】東京大学公共政策大学院 【発行日】2022年5月10日

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/>